

## 平成29年度 公益財団法人大分県体育協会第3回理事会

日 時：平成30年1月12日（金）14：00～

会 場：大分県庁舎新館14階「大会議室」

### 理 事

出席者 工藤 利明 井上 倫明 安部 亮 安部 省祐 大場 俊二  
(21名) 櫻井 康弘 詫摩 英明 土谷 忠昭 永田 佳也 牧 和志  
松本 悠輝 蓑田 智通 穴井 俊一 阿部 俊二 阿部 昭一  
衛藤 賢 小幡 龍也 白水 厚二 廣瀬 宏一 山崎 隆典  
渡邊 美穂

欠席者 広瀬 勝貞 麻生 益直 上野 浩光 首藤 奉文 梅田 智行  
(9名) 今富 寛二 桑野桂一郎 佐藤 彰倫 樋口 紅史

### 監 事

出席者 鍵矢 栄典 工藤 哲郎 矢部 正秋  
(3名)

### 参 与

欠席者 津田 元英  
(1名)

資格確認 伊藤総務部長が出席者21名で、本会定款第36条に従い、定数の過半数の出席者であるため本会が成立することを報告した。

#### 1 開会のことば

伊藤総務部長が開会のことばを述べた。

#### 2 あいさつ

公益財団法人大分県体育協会副会長 工藤利明大分県教育長があいさつを行った。

明けましておめでとうございます。皆様方には、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。会長の広瀬知事が他の公務のため出席ができませんので、代わりまして挨拶をさせていただきます。

本日は、第3回理事会を開催しましたところ、年初めの何かと御多用の中、御出席いただき誠にありがとうございます。また、昨年は、皆様方の御理解と御協力により、本県のスポーツ振興に関する様々な事業を円滑に推進することができました。重ねて御礼を申し上げます。

さて、年末年始の県勢の戦いを見てみますと、年末の全国高校駅伝では、大分東明高校が男子の部

で2年連続の第4位入賞を果たしました。また、年明けの箱根駅伝では、4連覇を果たした青山学院大学で往路山登りの5区に出場した鶴崎工業高校出身の竹石選手が、足をつりながらも先頭との差を詰める激走を見せてくれました。更に、先週末に開催されました高校のバレーボールでは、東九州龍谷高校が激戦を制し、見事準優勝となりました。いずれも、最後まで諦めることなく戦う姿は、県民に感動や勇気を与えたばかりでなく、我々「チーム大分」の復活に向けて大きな励みとなるものでございました。

御承知のように、昨年の愛媛国体では、天皇杯順位第25位と前年の屈辱的な順位からは脱しました。しかし、2年がかりで「10位台復活」という目標もありましたことから、本年の福井国体は勝負の年となります。「チーム大分」の総力をあげて、何としてでも成し遂げなければならないと考えております。既に第73回国民体育大会は、先月に開催された九州ブロック大会冬季大会アイスホッケー競技会を皮切りにスタートしています。冬季競技に出場する選手は、厳しい練習環境の中ではありますが、復活を期する「チーム大分」の先陣として、全力で臨んで欲しいと思います。

また本年は、スポーツ少年団事業や総合型地域スポーツクラブ活動支援をはじめとするスポーツ振興に関わる諸事業にも、引き続き積極的に取り組んでまいりたいと思いますので、理事の皆様方の変わらぬ御支援と御協力をよろしくお願いいたします。

結びに、本日は、補正予算、表彰関係などが主な議題であります。限られた時間ですが十分な御審議をいただきますようお願い申し上げまして、あいさつといたします。

議長選出 本会理事会定款35条より、工藤副会長に議長をお願いした。  
以降は、工藤議長による進行。

### 3 報告事項

- (1) 平成29年度事業報告について
- (2) 第72回国民体育大会成績について
- (3) 第73回国民体育大会に向けた競技力向上対策について
- (4) 第37回九州ブロック大会冬季大会アイスホッケー競技成績について
- (5) 全国表彰受賞者について
- (6) 各種大会成績について

以下、佐保事務局長の説明。

それでは3の報告事項(1)平成29年度事業報告ですが、今回は昨年8月の第2回理事会での報告以降の事業について主なものを抜粋して説明いたします。

レジュメの2ページをお開きください。まず、第72回国民体育大会関係事業を説明いたします。

No.1、9月1日会期前実施競技知事表敬訪問から始まりまして、No.3、9月22日の大分県代表団結団壮行式、No.4の愛媛国体開会式前日に松山市で行われたドクターズミーティングと、No.5の総監督会議、そして、No.6、9月30日から10月10日にかけて「笑顔つなぐえひめ国体」本大会が開催され、チーム大分423名で大会に参加してまいりました。大会成績につきましては、後ほど説明いたします。

3ページをお開きください。愛媛国体終了後ですが、No.11、10月27日に工藤秀明スポーツ奨励賞選考委員会を開催し受賞者を決定、No.15、11月7日に大分県代表団反省会、工藤秀明スポーツ奨励賞授与式、大分県代表団懇談会を開催、「チーム大分」は第73回国民体育大会での10位台復活を期して、一層の結束を深めました。4ページのNo.20は、競技別強化担当者会議、いわゆるヒア

リングを大分県競技力向上対策本部と合同で実施し、今後の競技力向上対策について協議いたしました。

次に、スポーツ少年団関係です。大分県スポーツ少年団外傷・傷害防止担当者養成講習会ですが、2ページのNo.9、3ページのNo.19、5ページのNo.31の3回の開催をもちまして、本年度の研修会を終えました。様々な角度から子どもの外傷・傷害防止担当者としての知識を御講義いただき、非常に有意義な講習会となりました。次年度は、さらに充実した講習会を開催していきたいと考えております。また、3ページのNo.14、11月5日に指導者・母集団連帯研修会を開催、関係者40名の参加により指導者の資質向上を目的に研修会を開催いたしました。4ページ、No.26、11月28日に駅伝交流大会の開催に向けて、第1回実行委員会を開催いたしました。だいぎんドーム改修の関係で、昨年度に引き続き、コースを変更して開催する予定です。

国体、スポーツ少年団以外の事業につきましては、3ページのNo.18、11月12日にガバナンス研修会を開催しました。この研修会は対象を毎年変えて開催しており、今回はスポーツ少年団指導者を対象に暴力や体罰の根絶に向け、「アンガーマネジメント」の視点から研修を行いました。4ページのNo.24、11月23日総合型地域スポーツクラブ交流会を県立総合体育館で開催しました。今回は、OBSの「おおいた元気フェスタ」とNHKの「ハートスポーツフェスタ」の同時開催により、昨年より倍以上となる1300名の参加者を得て開催することができました。

その他の事業につきましては、記載の通りでございます。後刻御確認いただきたいと思います。

(2)の第72回国民体育大会成績について報告いたします。レジュメ6ページを御覧ください。

1の総合成績は御覧のとおり、本県は936.5点を獲得し、天皇杯順位は第25位でした。この順位は一昨年の和歌山国体と同じ順位となります。また、3の九州各県総合成績比較を見ていただきますと、本県は九州ブロック大会では九州第3位の成績でしたが、国体でも九州第3位の成績でございました。

7ページを御覧ください。優勝した団体・個人の皆さん方です。最初に団体を紹介いたします。弓道競技成年男子近的において、大分県選抜チームが4年ぶり2度目の優勝を果たしました。フェンシング競技成年男子エペにおいて、大分県選抜チームが5年ぶり4度目の優勝を果たしました。フェンシング競技少年男子フルールにおいて、大分県選抜チームが6年ぶり2度目の優勝を果たしました。

次に個人を紹介します。陸上競技少年女子A100mにおいて兒玉芽生(こだま めい)選手が、同じく少年男子A5000mにおいてバヌエル・モゲニ選手が優勝いたしました。ウエイトリフティング競技成年男子+105kg級クリーンアンドジャークにおいて野中雅浩(のなか まさひろ)選手が2年連続で優勝いたしました。カヌー競技成年男子スプリントカナディアンシングル200mにおいて森田考博(もりた たかひろ)選手が優勝いたしました。ライフル射撃競技少年女子チームライフル立射40発において三重野呉春(みえの くれは)選手が優勝いたしました。自転車競技少年男子ケイリンにおいて、田仲駿太(たなか しゅんた)選手が優勝いたしました。

8ページから9ページにかけては、入賞一覧です。すべての入賞者の紹介は省略させていただきますが、入賞した競技数は昨年を2つ上回ったものの、種目数は昨年を6つ下回っている状況です。

10ページから26ページにかけては大分県代表団すべての成績一覧です。詳細な説明は省略させていただきますので、後刻御確認ください。

以上で第72回国民体育大会の成績についての報告を終わります。

(3)の第73回国民体育大会に向けた競技力向上対策について説明いたします。レジュメは27ページとなります。

まず、福井国体に向けた強化についてでございます。

昨年の岩手国体終了後からヒアリングや指標大会ごとに検証と見直しを行いながら強化に取り組んでまいりまして、天皇杯順位第25位という一定の成果は確認できたと考えております。しかしながら、10位台達成に向けてはまだ不十分であることから、福井国体に向けても引き続き実施して参りたいと考えております。

次に、チーム大分の現状と福井国体に向けた競技力向上対策についてでございます。28ページを御覧ください。

福井国体で10位台を目指すにあたり、平成23年の山口国体以降の19位以内の都道府県の特徴を分析したところ、特徴が2点ございました。

1点目は、該当する府県の内、約89%が100点獲得競技を持っていること。逆に、持っていない県は11%でありました。チーム大分の現状は、平成24年の岐阜国体まではカヌー競技が100点を獲得してきましたが、平成25年の東京国体以降、4年連続100点競技がないという状況となっております。

2点目は、5倍、8倍競技であるバレーやホッケーなどのチーム競技、8競技に限定した獲得得点の合計を見たところ、19都道府県は8競技平均173.7点を獲得しております。一方、チーム大分の現状は87.5点でした。これらの数字だけで分析いたしますと、100点獲得競技がなく、チーム競技8競技で100点以下という県が10位台を達成する可能性は0.7%ということになります。

しかしながら、チーム大分の現状、これまで蓄積してきた強化ノウハウから、目標達成に向けては「チーム大分」独自の戦略を構築し、課題を確実に解決していくことができれば、決して目標達成に向けては悲観する状況にはないと考えております。

戦略の1つ目は、獲得モデルとして、得点獲得競技数が最低20競技以上とし、その20競技中10競技以上が30点を、5競技以上が50点の獲得を目指すものです。キーワードは「20・10・5」です。この数字は各競技の得点力から分析される福井国体での可能性から、達成可能目標として「20・10・5」を導き出したものです。このキーワードが確実に達成できれば、100点競技がなくてもその穴を埋めることができます。

2つ目は、先ほど申し上げたチーム競技8競技で合計100点以上の得点を目指すものです。どのように目指すのかは、後に説明いたします。

そして3つ目は、目標を達成するためのPDCAサイクルを徹底するものです。これにつきましては、先ほど27ページで御確認いただきましたとおり、昨年から徹底しており、成果を上げてきていますので、引き続き適時にPDCAサイクルをチェックしていきたいと考えております。

これらの戦略を競技団体と共有し、各競技の現状分析、課題整理、今後の対策などを協議するため、県競技力向上対策本部と合同で、昨年11月に第2回ヒアリングを実施しました。まず、「チーム大分」の現状の“力”ですが、獲得競技得点の現状点と各競技が獲得しなければならないノルマ点に380点の差があることがわかりました。この差を今後の強化によって詰め、無くさなければ目標の達成はありません。

それに向けては、団体競技の集中強化、各競技団体との目標の共有と役割の明確化を図ること、また、大分国体の前年と同様の危機感を持って強化に取り組むことが大切であると考えております。

主な対策としては、少年種別においては、「選抜力の強化」です。全国選抜やインターハイに向け単独チームとして高めた個々の競技力をいかに選抜チームで最大限に発揮するか。そのために、早期の選手選考と計画性を持った強化事業の実施、更に、実施に対してPDCAを徹底し確実に競技力を高めていきます。一昨年の岩手国体の反省から、「選抜力」の強化に取り組んでおり、昨年の愛媛国体では確実に「選抜力」強化の成果が見えてきましたが、まだ十分ではないことから、昨年にも増して早期に「選抜」強化をスタートさせているところです。

一方、成年種別は、先ほどの戦略の中の団体競技の集中強化の中で即効性のある強化策として、「ふるさと選手の獲得」について、早速動き始めたところでございます。団体競技の得点力の向上を短期で実現するためには、優秀な選手を補強することがより確実な強化と考えます。本県には所属先との関係などで「チーム大分」として国体に出場できていない優秀なふるさと選手がいます。それぞれの選手が大分から出場できない状況を分析し、何とか「チーム大分」から出場できるよう、既に県競技力向上対策本部と連携して動いているところでございます。

この図には示してはませんが、これらに加え、各競技毎の課題に応じた強化策を早期に実施し、PDCAにより分析された新たな取り組みを福井国体まで続けていきながら、取り組みの成果と課題

を、来年度の第1回ヒアリングで検証し、強化策の見直し等を行いながら競技力向上に取り組んでまいります。

見通しといたしましては、本年5月には分析点とノルマ点の差を100点とし、インターハイ等終了時点で50点差、そして最終目標である福井国体でノルマ点の達成を目指します。

いずれにいたしましても、今後の強化につきましては、特効薬などございませんので、目標達成に向けた強い思い、正確な分析、効果的な強化策を競技毎の状況に応じて徹底させていくことにつきると考えております。決して楽観視できる状況ではございませんが、必ず「大分方式」によって目標を達成するという決意を競技団体と常に共有して強化に取り組みたいと考えております。

以上で第73回国民体育大会に向けた競技力向上対策について報告を終わります。

次に、(4)の第37回九州ブロック大会冬季大会アイスホッケー競技成績について説明いたします。レジュメは29ページとなります。

本年1月28日から開催される第73回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会の出場権を懸けて、九州ブロック大会が昨年12月2日(土)・3日(日)に福岡県立総合プールスケートリンクで開催されました。本県は成年男子種別に出場し、初戦、鹿児島県と対戦いたしました。なお、成年男子種別は代表権が4つですので、初戦を勝てば代表権獲得となります。結果は御覧のとおり、3対2で勝利し、4年ぶりに代表権を獲得いたしました。

アイスホッケー競技は、県内に練習場がない環境に加え、選手の高齢化も進む中、最後まで諦めないプレーで勝利を獲りました。国体では、復活を期す「チーム大分」の先陣として、精一杯戦っていただきたいと思っております。

次に、(5)の全国表彰受賞者について説明いたします。レジュメは30ページとなります。

まず、永年にわたりまして、体育・スポーツの振興・発展に功績のありました方に対する文部科学大臣表彰でございますが、本年度は、生涯スポーツ功労者として、空手道球競技の普及振興に尽力されました豊後高田市の土谷伸也(つちや しんや)さん、軟式野球競技、特に女子の普及振興に尽力されました竹枝撰(ちくし せつ)さんの2名が受賞されました。

次に、公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者等表彰でございます。この表彰は資格取得後15年以上にわたり、スポーツの普及振興及び指導者育成等に尽力し、顕著な功績をあげた方々に対する表彰でございます。

表彰を受けられました方は、指導者の部ではバレーボール競技において多大な功績を上げられている池田一彌(いけだ かずや)さん、スポーツドクターの部においては、昨年度まで本会スポーツ医科学委員会委員として、医科学の見地から本県スポーツの普及発展に尽力されました、内田六郎(うちだ ろくろう)ドクターでございます。

本年度、全国表彰を受賞されました方々に対しましてお喜び申し上げますとともに、今後ますますの御活躍をお祈り申し上げたいと思っております。

次に、(6)の各種大会成績について説明いたします。レジュメは31ページから40ページにかけてとなります。今回の報告は、第2回理事会以降に開催されました各種大会成績を、中学生は全国大会ベスト8以上、高校生・社会人は九州・西日本大会ベスト4、全国大会ベスト8以上、国際大会はすべての成績でまとめています。

それぞれの優勝数ですが、国際大会優勝は高校生1、社会人1の計2つ、全国大会優勝は中学生2、高校生1、大学生4、社会人9の計16、九州・西日本大会優勝は高校生30、大学生5、社会人8の計43です。なお、詳細につきましては資料提供をもって報告とさせていただきますので、恐れ入りますが、後刻、御確認ください。

以上で報告事項のすべての説明を終わります。

《質疑応答なし》

#### 4 議事

以下の議事について、佐保事務局長より説明した。

議案 1 平成29年度第1次補正予算について

議案 2 会長専決事項について

(1) 第37会九州ブロック大会冬季大会アイスホッケー競技大分県代表団について

(2) 第73回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技・スケート競技会大分県選手団について

議案 3 第73回国民体育大会冬季大会スキー競技会大分県選手団について

議案 4 大分県体育協会表彰について

議案 5 平成28年度スポーツ振興事業助成金実施調査の調査結果に基づく改善方策について

##### 【議案1 平成29年度第1次補正予算について】

それでは平成29年度第1次補正予算について説明いたします。レジュメは41ページからとなります。

今回の補正予算につきましては、本年度、すでに予算執行を終えている事業についてその実態に合わせて行うものに加え、年度途中で予算の変更があったものについて行うものでございます。本会の会計は、公益法人会計として、大分県スポーツ振興事業、大分県スポーツ少年団事業、大分県スポーツ普及・表彰事業の3事業の会計と、事務局運営に係る法人会計の4会計からなっています。それぞれの会計ごとの資料は、41ページから48ページにかけて詳細に記載していますが、わかりやすくするために、49ページの次にありますA3の概要版を使って説明させていただきます。恐れ入りますが、レジュメの方向を変えていただきまして、概要版を御覧ください。

補正前予算額・補正額・補正後予算額の角カッコは大科目、丸カッコは中科目、カッコがないのが小科目の金額となっています。また、表の右端の小さな数字は行数を示しています。

まず、一般正味財産増減の部の経常収益、いわゆる収入の部でございます。14行目の国民体育大会参加費ですが、補正前予算額1億3千384万9千円に対しまして、4千740万8千368円減額補正、補正後予算額8千644万飛んで632円でございます。これは、国体参加者数を最大数で積算しているため、実態に応じて減額補正するものでございます。

次に24行目、39行目の九州ブロックスポーツ少年大会、35行目の県スポーツ少年についてですが、補正前予算額を全額減額補正し補正後の予算額が0円となっています。これは、九州ブロックスポーツ少年大会については台風の接近により、県スポーツ少年大会については社会教育施設が確保できず事業が実施できなかったことによるものです。

次に34行目の九州ブロックリーダー研究大会ですが、補正前予算額0円に対しまして、7万2千円の増額補正、補正後予算額7万2千円でございます。これは、参加者負担金徴収により計上したものです。

その他の補正につきましては、すでに予算執行を終えている事業について、その実態に合わせて行うもので、参加者数の増減等によるものがございますので、詳細の説明は省略させていただきます。

経常収益合計につきましては53行目ですが、補正前予算額2億8千869万1千円に対しまして、4千734万8千772円減額補正の補正後予算額は2億4千134万2千228円となります。

次に経常費用、いわゆる支出の部でございます。大分県スポーツ振興事業の63行目の国民体育大会参加費につきましては、経常収益と同じ理由により、同じ額の減額補正となっています。79行目の上記3事業の事業管理費につきましては、補正前予算額2千224万4千円に対しまして、74万3千195円減額補正の補正後予算額は2千150万飛んで805円でございます。これは、経費削減によるものです。81行目の法人会計ですが、補正前予算額596万2千円に対しまして、35万3千338円増額補正の補正予算額は631万5千338円でございます。これは、本会事務局入口の鍵セキュリティ修理、文書廃棄経費の増額によるものでございます。

その他の補正につきましては、すでに予算執行を終えている事業について、その実態に合わせて行うもので、参加者数の増減等によるものがございますので、詳細の説明は省略させていただきます。

つきましては、82行目の経常費用合計ですが、補正前予算額2億8千869万1千円に対しまして、4千835万1千754円減額補正の補正後予算額は2億4千飛んで33万9千246円となります。

続いて88行目、当期一般正味財産増減額ですが、補正前予算額0円に対しまして、百万飛んで2千982円増額補正の百万飛んで2千982円となります。この増となりました百万飛んで2千982円が黒字見込額となります。

最終行、正味財産期末残高につきましては、補正前予算額の正味財産期末残高3千418万6千493円に対しまして、85万7千822円増の、補正後予算額の正味財産期末残高3千5百飛んで4万4千315円となります。

以上で平成29年度第1次補正予算の説明を終わります。御審議お願いいたします。

《質疑応答なし、全会一致で承認された。》

### 【議案2 会長専決事項について】

それでは、会長専決事項について説明いたします。先ほど報告いたしました第37回九州ブロック大会冬季大会アイスホッケー競技会、及び第73回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会・スケート競技会の大分県代表団につきましては、参加申し込みまでに理事会を開催することができませんでしたので、会長専決により参加申し込みをさせていただき、本日の理事会で承認をいただきたいというものでございます。

レジュメ50ページでございます。まず、(1)の第37回九州ブロック大会冬季大会アイスホッケー競技会大分県代表団につきまして説明いたします。

役員といたしまして、団長に井原 誠 (いはら まこと) 県アイスホッケー連盟会長、総監督に井上倫明 (いのうえ みちあき) 本会専務理事、総務員は3名、選手団については、資料記載のとおり、下村 馨 (しもむら かおる) 監督他選手20名でございます。

次に、(2)の第73回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会・スケート競技会大分県代表団につきまして説明いたします。51ページをお開きください。

アイスホッケー競技会は1月28日から神奈川県横浜市で、スケート競技会(ショートトラック)は、1月31日から山梨県甲府市で開催されます。本部役員といたしまして、団長に玉田輝義(たまだ てるよし) 県スキー連盟会長、副団長に井原誠(いはら まこと) 県アイスホッケー連盟会長、三宅文子(みやけ あやこ) 県スケート連盟理事長、総監督に井上倫明(いのうえ みちあき) 本会専務理事、ほか総務員は2名でございます。

アイスホッケー競技の選手団は、下村 馨(しもむら かおる) 監督他選手16名でございます。

スケート競技の選手団は、三宅理紗(みやけ りさ) 監督、佐藤陽太郎(さとう ようたろう) 選手でございます。

以上で会長専決事項についての説明を終わります。御審議お願いいたします。

《質疑応答なし、全会一致で承認された。》

### 【議案3 第73回国民体育大会冬季大会スキー競技会大分県代表団について】

第73回国民体育大会冬季大会スキー競技会大分県代表団につきましてご説明いたします。レジュメは52ページでございます。

スキー競技会は2月25日から新潟県妙高市で開催されます。本部役員といたしまして、団長に玉田輝義(たまだ てるよし) 県スキー連盟会長、副団長に河村和彦(かわむら かずひこ) 県スキー

連盟副会長、総監督に井上倫明(いのうえ みちあき)本会専務理事ほか総務員は2名でございます。

旗手は少年男子ジャイアントスラロームに出場する佐藤浩一(さとう こういち)選手です。監督、選手につきましては記載のとおりで、監督3名、選手11名でございます。

以上でございます。御審議お願いいたします。

《質疑応答なし、全会一致で承認された。》

#### 【議事4 平成29年度大分県体育協会表彰について】

それでは、平成29年度大分県体育協会表彰について、説明いたします。レジュメは53ページからでございます。

この表彰は、学校・地域または職域におけるスポーツの健全な普及及び発展に貢献し、本県スポーツの振興に著しい成果をあげた個人及び団体を表彰するもので、1月26日金曜日15:00からレンブラントホテルで表彰式を開催するものでございます。表彰の種類及び推薦基準につきましては、恐れ入りますが、76ページをお開きいただきまして、中段上の第4条にございますが、表彰の種類は「スポーツ功労者及び団体」、「スポーツ優良生徒」、「生涯スポーツ功労者及び生涯スポーツ優良団体」の3種類でございます。なお、「スポーツ功労者及び団体」につきましては、個人、団体、指導者の3部門になっております。推薦基準につきましては記載のとおりでございます。

恐れ入りますが、53ページにお戻りください。本年度の候補者及び候補団体の総数ですが、スポーツ功労者及び団体では、個人の部は前年から11名増えて57名、団体の部は前年から2団体増えて15団体、指導者の部は前年から1名減って2名でございます。生涯スポーツ功労者及び生涯スポーツ優良団体では、生涯スポーツ功労者は前年から2名増えて5名、生涯スポーツ優良団体は前年より1団体減って3団体でございます。スポーツ優良生徒では、中学生の部では前年より6名増えて229名、高校生の部では前年より9名増えて266名でございます。

次に各部門別の候補者でございます。レジュメ54ページからでございます。

最初に、スポーツ功労者個人の部57名でございます。一人一人の紹介は省略させていただきますが、競技別人数の内訳は、水泳8名、ボート2名、セーリング3名、陸上競技3名、テニス1名、体操1名、新体操3名、ウエイトリフティング2名、ハンドボール5名、自転車4名、相撲1名、柔道1名、フェンシング3名、ライフル射撃5名、剣道4名、アーチェリー2名、空手道1名、カヌー8名となっています。

57ページをお開きください。団体の部15団体でございます。個人の部と同じく詳細な説明は省略させていただきますが、競技の内訳は、ボート1団体、テニス1団体、バレーボール2団体、ハンドボール2団体、フェンシング3団体、弓道1団体、カヌー5団体となっています。

指導者の部につきましては、全国トップレベルの選手を育成している水泳競技の木本淳士(きもとあつし)さん、なぎなた競技の小野博美(おのひろみ)さんの2名でございます。

58ページをお開き下さい。生涯スポーツ功労者でございます。永年にわたり日田市においてバドミントンの指導に尽力され、県民体育大会での4連覇を含む13回の優勝を果たすなど、普及や選手育成、競技力向上に貢献をされている日田市の菅田敏幸(すがたとしゆき)さん、永年にわたり日田市においてバレーボールの普及に尽力され、昭和49年には日本リーグを模した日田リーグを創設、平成2年及び10年には国際大会を誘致し開催するなど、バレーボールの発展に貢献されている、日田市の長嶋求(ながしまもとむ)さん、永年にわたり大分市長浜校区内のスポーツ振興、特に女性が活躍できる場づくりや高齢者の体力づくりに尽力され、生涯スポーツの普及・発展に貢献されている、大分市の佐藤利明(さとうとしあき)さん、永年にわたり滝尾スポーツ少年団の指導者として、技術の向上と青少年の健全育成に尽力され、各種大会や遠征を行うとともに地域の行事にも参加し地域活性化に寄与するなど、大分市スポーツ少年団の発展に貢献されている吉野正武(よしのまさたけ)さん、永年にわたりセーリングの普及に尽力され、別府湾横断レースや蒲江ニューイヤーズカップなどの大会を開催し選手の活動をさせるなど、セーリングの発展に貢献されている米良真理(めら



まり)さんの5名でございます。

続いて、生涯スポーツ優良団体でございます。

昭和51年に活動を開始し、公式戦をはじめ、夏季キャンプ、桃園グラウンドの清掃などの様々な活動を行い、団の連帯感を高めたり、団員全員で餅つき大会を行うなど、技術力向上のみならず、心の成長においても丁寧な指導をしており、他の団の模範となる活動を実践している、大分市の「桃園小スポーツ少年団軟式野球」、昭和43年に創設以来、野球を通して青少年の健全育成に貢献している。団員11名の内、4名が女子団員で活動しており、森岡そうめん流しや、夢灯籠といった地域活動も積極的に行い地域住民との交流を深めている、大分市の「森岡野球少年団」、昭和44年に創設以来、心身ともに健全なる青少年活動に尽力。練習も熱心に行い、公式戦や遠征を数多く行い経験を積むことによりサッカーの技術向上に努めている。大分市の各種大会や行事に積極的に参加しており、他の模範となる活動をしている、大分市の「城南サッカースポーツ少年団」の計3団体でございます。

次に、スポーツ優良生徒でございます。59ページからでございます。

まず中学生の部ですが、59ページに県中体連から推薦のありました候補者の数を学校別の一覧にしています。42校から男子130名、女子99名、計229名でございます。60ページからは競技別の候補者を掲載しています。競技別人数の内訳は、水泳14名、陸上競技19名、サッカー14名、テニス6名、バレーボール26名、体操2名、新体操5名、バスケットボール14名、ハンドボール12名、相撲3名、卓球10名、ソフトテニス8名、軟式野球37名、柔道13名、ソフトボール14名、フェンシング1名、バドミントン10名、剣道9名、空手道11名、カヌー1名でございます。詳細な説明は省略させていただきますが、候補者名、所属、成績等については記載の通りでございます。

67ページをお開きください。次に高校生の部でございます。県高体連、県高野連から推薦のありました候補者の数を学校別の一覧にしています。34校から男子181名、女子85名、合計266名でございます。

68ページからは競技別の候補者を掲載しています。競技別人数の内訳は、水泳4名、水球7名、ボート3名、セーリング7名、陸上競技11名、サッカー9名、テニス3名、ホッケー14名、バレーボール12名、体操4名、新体操1名、バスケットボール16名、レスリング8名、ウエイトリフティング6名、ハンドボール15名、自転車6名、ソフトテニス12名、卓球8名、相撲2名、柔道18名、ソフトボール10名、フェンシング6名、バドミントン5名、弓道7名、ライフル射撃8名、ラグビーフットボール29名、空手道2名、カヌー13名、なぎなた3名、少林寺拳法1名、高校野球(硬式)16名でございます。詳細な説明は省略させていただきますが、候補者名、所属、成績等については記載の通りでございます。

以上、いずれの表彰も推薦基準を満たしておりますことを報告させていただきます。なお、例年のことですが、本理事会終了後に追加申請がある可能性がございます。その場合には、推薦基準を満たしているか否かを事務局で審査し、会長専決とさせていただきたいと思っておりますので、このことも併せて御審議をお願いいたします。以上でございます。

《質疑応答なし、全会一致で承認された。》

#### 【議案5 平成28年度スポーツ振興事業助成金実態調査の調査報告に基づく改善方策について】

それでは、議案5の平成28年度スポーツ振興事業助成金実態調査の調査報告に基づく改善方策について御説明いたします。レジュメは78ページでございます。

本会では、平成22年度から広報誌「スポーツ大分」、また平成27年度から「大分県スポーツ少年団駅伝交流大会」の2つの事業につきまして、独立行政法人日本スポーツ振興センターが実施するスポーツ振興事業助成金を受けておりますが、昨年11月6日に平成28年度の「大分県スポーツ少年団駅伝交流大会」に係る助成金の執行状況について調査があり、平成29年12月27日付けで調査結果がまいりました。通知の要旨は、不適切な会計処理等が認められたことから、指摘事項に対す

る改善方策を機関決定した上で、1月26日までに提出を求めるというものでございます。

まず1点目の指摘事項は、専用口座の開設及び活用状況についてでございます。交付要綱において、「助成事業者は、金融機関に助成事業についての専用の口座を設けておかなければならない。」と規定されています。本会では、平成25年度広報誌「スポーツ大分」事業を対象とした同調査において、助成事業専用口座を設けていなかった点の指摘を受け、平成26年12月10日に専用口座を開設し、以後「スポーツ大分」の支出入につきましては、この専用口座を使用しているところでございます。

しかしながら、平成27年から助成を受けております「大分県スポーツ少年団駅伝交流大会」につきましては、プログラムの印刷製本費と記録測定業務の雑役務費に対する助成でありましたので、専用口座を使用せず、スポーツ少年団事業の口座で大会全体の支出入の処理を行ってまいりました。

この点につきまして、専用口座を設けず、前回の指摘事項が改善されていないと再度指摘を受けたわけでございます。

続いて、2点目の指摘事項は、関係書類の整理状況でございます。

センターからの通知文書をくじ助成金事業用簿冊で保管せず、他の事業用簿冊に保管していたことに対する指摘でございます。これまで、助成金を含めた本会の会計につきましては、適正な処理に努めてまいりましたが、これら2点の指摘事項につきましては、独立行政法人日本スポーツ振興センターが定める交付要綱に従った会計処理が出来ていなかったことは事実でございます。事務局を預かるものとして、お詫び申し上げます。今回の指摘事項に対する改善方策については、機関決定の上、提出するよう求められておりますので、改善方策につきまして御審議願うものでございます。

改善方策の案でございます。1の専用口座の開設及び活用状況につきましては、今回指摘を受けました「大分県スポーツ少年団駅伝交流大会」に係る出入金を含め助成を受ける全ての事業において、今後は開設済みである専用口座を利用していきたいと考えております。

2の関係書類の整理状況につきましては、今後センターからの通知文書については、くじ助成金事業用簿冊で一括保管し、他の事業用簿冊には保管しないように徹底してまいりたいと思っております。以上が今回の調査結果に係る改善方策でございます。御審議の程お願いいたします。

《質疑応答なし、全会一致で承認された。》

## 5 その他

以下の事項について、佐保事務局長より説明した。

その他（1）日本体育協会の名称変更について

### 【その他（1）日本体育協会の名称変更について】

それでは、日本体育協会の名称変更について御説明いたします。レジュメは81ページでございます。

日本体育協会は、平成29年6月23日に開催されました定時評議員会において、名称変更の提案が承認されたことから、平成30年4月1日から日本スポーツ協会と名称が変更されます。なお、このことによる各県体育協会の名称変更が求められるということではありません。

現在、従前からスポーツ協会の名称であった群馬県以外は体育協会の名称ですが、来年度以降、名称を変更する都道府県もあるかと思われれます。事務局といたしましては、全国の動向等注視しながら、時期をみて提案したいと考えております。以上でございます。

《質疑応答なし》

## 6 閉会のことば

伊藤総務部長が閉会のことばを述べた。

平成30年1月12日

副会長 工藤利明

監事 鍵矢栄典

監事 工藤哲郎

監事 矢部正秋